

平成26年度 医動物・食品中異物検査のまとめ

医動物担当では、人の健康を害したり、不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。平成26年度の食品中異物検査実績は、5件でした。

依頼された4件は昆虫類で、1件は環形動物でした。その内訳は、昆虫類がチョウ目2件、ハエ目2件で、環形動物がミズ綱1件でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
パンに褐色の異物が付着していた		チョウ目幼虫の脱皮殻 及び昆虫類の虫体の一部	チョウ目の幼虫は農作物、果実、樹木を食害するものや穀類や菓子類を食害するものなど極めて多食性で種類も非常に多い。
	脱皮殻その他、褐色、1.8mm		
いよかんに幼虫がみられた		チョウ目(ガ類)の一種	ガ類成虫は一般に夜行性で、灯火に集まる。主に幼虫が食品を加害し、その生活様式は多様で、一般的には農作物、果実、樹木などの植物や乾燥動植物等を食害する。
	幼虫、褐色、約8mm		
干物にハエが付着していた		クロバエ亜科 (ハエ目)	クロバエ類は大形のハエで青黒色をしている。成虫は腐った肉や厨芥に集まり、幼虫はゴミ箱やゴミ処理場の食物残渣、動物糞などから発生する。
	成虫、黒色、約12mm		
給食にゴミ様の異物が混入していた		ハモグリバエ科 (ハエ目)	小型のハエで、幼虫はいろいろな植物の葉の中にトンネルを作り、葉肉を食べる。全世界で約2,500種が知られている。中でもナモグリバエの幼虫は極めて雑食性で、寄生植物はエンドウ、ゴボウ、ダイコン、ジャガイモ、トマト、キャベツ、ハクサイ、カブなど多岐にわたる。
	蛹、黒褐色、約2mm		

相談内容・ 発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
やきそば弁当に ミミズ様異物が 混入していた	 <p data-bbox="422 544 715 577">成体、黒褐色、約60mm</p>	ミミズ綱(貧毛綱)の一 種	体は多数の規則正しい環状 の体節からなり、体表に短い 剛毛がみられる。陸生種、水 生種に大別される。日本では シマミミズが代表的な陸生種 で、ゴミ捨て場、堆肥の近く や台所の流し付近の湿った 場所に住む。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】